

導入事例
てれたっち言葉で説明して、視覚で確認して、記憶にとどめる。
「てれたっち」で実現する「3ステップ」が学習効果に直結。

諏訪市立中洲小学校は、理科振興やものづくり教育の実践を掲げる長野県諏訪市における最大規模の小学校です。ソニー財団子ども科学教育全国大会の最優秀校に2度選ばれるなど、理科教育に注力する同校では、「てれたっち」を効果的に使って授業を行っています。率先して活用に取り組まれる海沼峰華先生、山本一樹先生と小松幹教頭先生にお話を伺いました。
※先生のご紹介、学校での設置状況などは取材当時のものです。



※ディスプレイは別売りです。

導入商品

外付け型タッチ化ユニット
「てれたっち」

DA-TOUCH / WB

Ⅰ 児童のノートを書いてそのまま発表・共有、書き込んで、比較もできる

「てれたっち」を使った授業の流れを教えてください。

海沼先生:授業ではよくグループワークを行います。たとえば算数ならば、まずは冒頭で私が「てれたっち」を使ってその日の学習課題や問題を説明します。その後グループごとに考えを練り、最後のまとめの段階では児童が「てれたっち」を使って、「どう考えたか」を発表しあって共有します。発表では実物投影機を使って画面に児童のノートを書しますが、細部まで鮮明に拡大できる「てれたっち」は非常に便利です。もちろん児童にタッチペンを渡して、どんどん画面に書き込みをさせています。次の授業で振り返りとして使うために、書き込んだ画面を保存するというのもしています。

山本先生:私は理科の専科を担当していますが、特に視覚的な要素が強い科目ですので、「てれたっち」は重宝しています。実物投影機と連携させて小さなものを拡大表示したり、大事なポイントをマーカーで指し示したり。また、実験や観察の結果を表にまとめる用途にも最適ですね。サブ黒板として、資料を切り替えて見せるともしています。



大事なポイントを自分で指し示して



実物投影機と組み合わせで活用

Ⅱ 「言葉で説明して、視覚で確認して、記憶にとどめる」ことが重要

様々な学習効果があったとのことですが、具体的に教えてください。

海沼先生:「てれたっち」を使ってほかの児童のノートを見ることにより、友達の考え方を受け入れ、自分との違いに気付くことができます。後で友達にわかりやすく説明しようと、考えを整理しながらノートをまとめられるようにもなりました。「タッチペンを使ってマークすること」には特に意義があります。自分が大切だと思うポイントを皆にはっきりと伝えることができますから、普段は自分の言葉で説明するのが苦手な児童も、「てれたっち」があると積極的に発表するようになりますね。さらに、「理解する」という観点でも、「てれたっち」は従来とは格段に違います。口頭で説明されるだけでは頭に入らないという児童でも、「てれたっち」を使ってあげることで、「言葉で説明して、視覚で確認して、記憶にとどめる」という流れにスムーズに乗ることができ、学習効果につながります。

Ⅲ 外国語教育やプログラミング教育の授業でも「てれたっち」の活躍に期待

今後の活用について、ヴィジョンなどがございましたらお聞かせください。

山本先生:今後も電子黒板の導入は進めていきたいと思っていますが、「てれたっち」のようなコストパフォーマンスのよい製品をたくさん導入してほしいですね。学校のような現場では、なるべく多くの先生、児童に平等に設備や機材が行き渡ることが重要です。

小松先生:理科教育はもちろんですが、今後、小学校では外国語教育の比重が重くなり、またプログラミング教育も開始されます。特に外国語は発音に苦手意識を持つ先生方も多いですが、そんな中で助けになるのがデジタルコンテンツでしょう。そして、その効果的な活用を支えるツールとして「てれたっち」にも期待しています。教員のマンパワーやスキルを補うためにもICT機器をさらに活用していきたいですね。担任の先生方の業務が増えていく中で、少しでも負担を減らせる方法があったら積極的に取り入れたいと思っています。



理科では視覚的な授業が効果的

取材にご協力いただいた先生

諏訪市立中洲小学校
海沼 峰華 先生諏訪市立中洲小学校
山本 一樹 先生諏訪市立中洲小学校
教頭
小松 幹 先生

CLIENT DATA

導入学校 / 諏訪市立中洲小学校
所在地 / 長野県諏訪市
設立 / 1872年